

もくじ

- ・ あか
赤いくつ

あか
赤いくつ

げんさく
原作： アンデルセン どうわ 童話

イラスト： kotokoto

へんしゅう
編集： YellowBirdProject

カレンは、^{ちちおや}父親と^{ははおや}母親を^{はや}早くに^{びょうき}病気で^な亡くし、
 おばあさんと二人で暮らしていました。おばあさんは、
 カレンを^{ほんとう}本当にかわいがり、^よ読み^が書きや、^{さいほう}裁縫なども
^{おし}教えてくれました。

やがて、カレンは^{じゅうごさい}十五才の^{たんじょうび}誕生日を^{むか}迎えました。
 この国では^{くに}十五才になったら、^{じゅうごさい}教会へ^{きょうかい}いって^{いわ}お祝いの
^{ぎしき}儀式をする^{しゅうかん}習慣がありました。おばあさんが、^{いわ}お祝いの
^{ぎしき}儀式で^き着る^{ふく}服や^{くつ}靴を^か買ってくれるというので、
 カレンは^{むね}胸をはずませて、おばあさんと^{いっしょ}一緒に^{ばしゃ}馬車で
^か買物に^{もの}出かけました。

^{まち}町で^{いちばんおお}一番大きな^{くつや}靴屋の^{てんない}店内で、カレンは^{たな}ガラスの^{たな}棚
 に^{なら}並べられた、^{いろ}色とりどりの^{くつ}靴をながめていました。
 ふとカレンの目に、^め真っ^ま赤な^かエナメル^{くつ}の靴が^{うつ}映り
 ました。その^{くつ}靴に、^{ふしぎ}なぜか^{みりよく}不思議な^{かん}魅力を感じた
 カレンは、おばあさんに^{たの}頼んで、この^{くつ}靴を^か買って
 もらいました。



5

にちようび 日曜日になり、カレンは早速買ったばかりの赤い靴
を履いて、教会へ向かいました。教会には、すでに
たくさんの人が集まっていた。人々は、馬車から
降りたカレンの、赤い靴を見て言いました。

「まあ、教会に赤い靴を履いてくるなんて、
どうかしてるわ」

「いったいなにを考えているのかしら・・・」

カレンは、教会に入る時は、黒い靴でなければ
いけないという習慣を知りませんでした。一緒にいた
カレンのおばあさんも、目が悪くて、靴の色を
見分けることができなかったのです。

(みんな私の赤い靴を見ている。どう、すてきでしょ
う?)

カレンは、自分が非難の目で見られていることに、
気づきませんでした。

